広報妻籍宿



公益財団法人妻籠を愛する会

令和4年11月20日発行

No.144



(一石栃立場茶屋)

「妻籠宿」を訪れた人は、古い町並みの中やコケむした石畳を歩いていると、まるで何百年も前の時代に迷い込んだかのような大きな時間の流れを感じるようです。

秋深くなると見られる陽ざしの姿や風に運ばれるモクセイの香り、竹林のゆれる音、冷たい水、楽しげにご近所さんとおしゃべりする女衆の声、きっと何百年も前からずっとここに存在していたことでしょう。それが当時の景色の中に今も在るという事が有難く、また、この先何百年も同じように在り続けることの難しさを私に教えてくれます。

小笠原 美雪

文化文政風俗絵巻之行列3年ぶりに開催!

令和2年・3年と新型コロナウィルス感染の影響を受け、中止となっていた「文化文政風俗絵巻之行列」ですが、規模を縮小して開催の予定です。53・54回は瓦版のみ発行されました。今年は55回となります。

本来は、渡島から大妻籠まで一日かけて歩いていますが、今回のみ旧妻籠小学校校庭から恋野大屋宅前を経て妻籠宿に入り、寺下までの半日コースとなります。いつも遠くから応援していただいた外部出演者には今回はご遠慮いただき、地元住民のみでの開催となります。また、行列出演者たちが妻籠宿内でお弁当を広げる姿は、行列の風物詩となっていますが、今回飲食は取りやめにしました。

来年は新型コロナウィルス感染も収束し、従来通りの文化文政風俗絵巻之行列が開催されることを強く期待しています。

過去の写真を見ながら風俗絵巻之行列を振り返っ てみたいと思います。

















一石栃立場茶屋だより

10・11月は馬籠峠ハイキングには最高の季節です。好天も続き一石栃立場茶屋は賑わいを見せています。

10月に外国人観光客の個人旅行の解禁などに伴い、今までは在日インバウンドばかりでしたが、海を渡って大勢の外国人観光客が中山道を歩き始めました。一石栃立場茶屋は以前のように国際交流の場として賑わいを取り戻しつつあります。

また、この季節は囲炉裏が嬉しく、斜光も入って情緒豊かな光景です。









[茶屋の中でも外でもちょっと一休みしてくださいね]







妻籠宿案内人の会視察研修の旅

妻籠宿案内人の会会長 松 瀬 康 子

案内人の会では、平成26年12月に重要伝統的建造物群保存地区に指定された千曲市稲荷山を見学してまいりました。指定地域では重厚な商家の主屋、門そして土蔵と、幾多の往時の繁栄を物語る建物を見ることができます。しかし、これらの建物がいつの時代の物なのかが分かりづらく、中には朽ちたり空き地になっていたり、また突然令和のモダンな家が現れたりと、ちょっと複雑な印象を持ちました。考えてみれば、三年前の千曲川の氾濫は千曲市にとってそれどころではなく、自治の方向は復興に向けられていたことだったでしょう。今後の修復保存にご努力頂きたいと思う次第です。





〈千曲市稲荷山〉

その後、松代へと移動し、松代城跡など国指定史跡めぐりをいたしました。10年程前にも会の皆さんと研修で来たことがありましたが、今回はあまりにも立派に修復工事がなされていて、長野県長野市の力の入れようを感じたところです。

思えば、妻籠城跡も県の史跡に指定され、歴史上でも関ヶ原の戦に向かう二代将軍秀忠は、妻籠城にて東軍勝利の報を知るわけです。それには真田西軍による進行阻止の攻撃を受け、戦に間に合わなかったという失態を起こしたのです。四百年以上前の出来事が今ここ海津城にて偲ばれます。幸村は西軍と共に没することになりますが、真田家は兄信之が徳

川に付き、真田の歴史は続くことになりました。そして近代史に名を連ねる人々の国づくりの学舎であった文武学校では、教育県といわれる長野県の礎を見た思いです。歴史の場面がグルグルと巡り、帰りのバスの中ではカメラがない、メガネがない等と現実に戻されましたが、カメラもメガネも見つかり楽しく無事視察の旅を終えました。また一つ語りの引き出しが増えたと思っているところです。

こんな活動をしている案内人の会に入会し、御一緒しませんか。お待ちしています。





松代城跡にて〉松代藩文武学校と





チェロの生演奏も〈当日文武学校では

信州歴史的まちなみフォーラムが開催されました

理事長 藤 原 義 則

「第3回信州歴史的まちなみフォーラム2022in安 曇野」が10月22日開催され、新井・藤原が参加しま した。

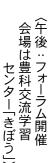
安曇野は用水網と本棟造りの民家や屋敷林が残る 田園集落です。午前は、まちなみ見学会、午後は フォーラムで合わせて150人が全県より参加し好天 のもとで見学会と勉強会、懇親会と多忙な意義ある、 一日を過ごしました。

まちなみ見学会にはボランティアガイドを含め40名ほどが参加され、屋敷林と重厚な高貴な人を迎える通用門を構えたお屋敷などを詳しい説明を聞きながら散策することが出来ました。

午後からは、笹本正治長野県立歴史館特別館長の「文化的景観を活かしたまちづくり」と題した基調講演に続き、パネルディスカッションでは宮崎コーディネーター(屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト)の司会進行により信大工学部建築学科の梅干野成央氏、NPO稲荷山蔵の会田中清江氏、NPO小諸町並み研究会荻原礼子氏、NPO安曇野ふるさとづくり応援団宗像章氏、屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト場々洋介氏のパネリストの皆さんが地域への思いを語り、熱い時間があっと言う間に過ぎてしまいました。また笹本先生からはアドバイザーとして広い経験に基づくアドバイスがあり、それぞれの思い、課題について指導を頂きました。

当フォーラムは太田寛安曇野市長が副知事の時、まちづくりに関わる地域の人々の連携を図ろうという強い思いのもと、長野県域でまちづくりに携わる団体がネットワークを通して、それぞれの課題を共有して連携してゆくことを目的に発足したものです。自分たちの生活の場や地域の景観をお互いに評価できることは、地域づくりの糧になります。

来年も知らないまちを見学できることを楽しみに したいと思います。多くの皆さんの参加を望みます。











〈午前中はまちなみ見学会〉



総務委員長 今 井 啓 文

今年の9月は不安定な天気が続き、連体の度に台風が来て作業日程に苦労しましたが、ようやく29日に消火栓の点検を行うことが出来ました。

この消火栓は、言うまでもなく川より引き込む水を利用しておりますが、やはり台風のせいで取り込み口が壊され、昨年は作業を中止しました。それまで年一回のペースで行っていましたが、久しぶりのせいか設置場所を忘れたり作業手順をもたついたりして、戸惑うことがありましたが、協力してくれた皆様のおかげで午前中には無事終えることが出来ました。

今年も水を出すと最初は泥水でなかなか綺麗な水にならなかったり、ハンドルが固まって回すことが出来なかったりしたものが幾つかありました。また、毎年のことながら解決されない問題もあり、使うことのないことが一番ですが、万が一のためには欠かせない作業だと思います。

この施設は昭和51・52年度に、小林俊彦さんや林茂さんを中心に設置されたものであり、以後、大井水組合会員によるタンクの掃除や草刈りなどで守り、妻籠を愛する会で消火栓を管理してきました。しかし、近年はパイプの水漏れなどの問題があり思案していましたが、町から近い時期に水道水に繋ぐ計画が示されました。早期に実現してもらいたいものと願っております。

末尾になりましたが、作業にご協力いただきました たくさんの皆様ならびに大井水組合役員の皆様にお 礼申し上げます。



〈上町~寺下〉





〈中町~下町〉

今年も木犀がいい香りでした!

9月26日に銀木犀が開花し、爽やかな香りを漂わせてくれました。

続いて金木犀が開花し、濃厚な香りで秋の訪れを伝えていました。



宿 場 暦

8月 3日: 妻籠宿案内人の会役員会·学習会

6日:一石栃草刈り作業(6名)

9日: 外来種駆除作業及び講習会(木曽風景街 道推進協議会:木曽町·理事長)、県高原観 光課来宿、妻籠地区地域振興協議会役員 会(理事長)、三役会、妻籠観光協会三役 会(常務)

19日: 発生土置き場候補地住民説明会 (JR東海・町並み交流センター)

20日: 広報143号発行

22日:統制委員会

24日: 愛宕山火まつり

25日: 地域活性化センター調査来宿

28日: 令和4年度第2回観光地点パラメータ調査

31日:妻籠宿保存地区保存審議会(博物館·理事長、常務)

9月 1日: 観光まちづくり委員会(南木曽会館・常務)

2日:理事会、第6次木曽広域連合広域計画策定 委員会(文化公園·理事長)

9日: 椙川女学園大学今村ゼミ来宿

12日: 観光まちづくり委員会 (南木曽会館・常務)

14日:南木曽町観光協会三役会(常務)

16日:三役会、第55回文化文政風俗絵巻之行列第1回実行委員会

20日:統制委員会

21日: 撮影許可審議委員会

28日: 広報部会

29日: 消火栓点検作業(総務委員会·14名参加)

30日:観光まちづくり委員会

(町並み交流センター・常務)

10月1日: トラスト地視察 (4名)

5日:第55回文化文政風俗絵巻之行列第2回実行委員会

6日:第4回史跡中山道保存活用計画策定委員会(南木曽会館·理事長)

11日: 妻籠観光協会三役会(常務)

13日: 妻籠宿案内人の会視察研修会(千曲市·長 野市)

14日: 衣装部会

15日: ゼロカーボンに向けた学習会(赤沢自然休養林・2名)、令和4年度第3回観光地点パラメータ調査

19日:観光まちづくり委員会

(町並み交流センター・常務)

20日: 統制委員会

22日: 歴史的まちなみフォーラムin安曇野(正副

埋事長)

24日:第6次木曽広域連合広域計画策定委員会

(木曽町·理事長)、広報部会

26日: 第4回史跡中山道保存活用計画策定委員

会(理事長)

31日:上下水道審議会(理事長)

統制委員会審議事項

8月22日

・電柱及び電線の移設(中電:上町旧分館) 1件・引込線新設(中電:上在郷) 1件・堰板修繕(愛する会:上町まつや) 1件・倒木処理及び雑木伐採(関電:吾妻橋) 1件・舗装工事(町:町営第1P)アスファルトの色確認 1件[その他]

·鳥害対策用品取付(中電:寺下実物確認)

9月20日

[その他]

・尾又三叉路 公安標識について

・妻籠郵便局 扉について

10月20日

·門除却(妻籠郵便局:上町)	1件
·歩行者専用標識の移転(尾又区)	1件
·群状択伐 (関電:妻籠地区)	4件
·引込線新設(中電:尾又)	1件
・車庫門屋根葺き替え(中町:個人)	1件
·道路築造工事(県:馬籠峠)	1件

【統制委員会からのお知らせ】

重伝建地区内で家屋の修繕等行うときには、事前に統制委員会への届出が必要となります。申請 用紙は愛する会にあります。

また、補助金が出る場合もありますので、町教育委員会又は愛する会事務局にご相談ください。

景観保持のため、宿場内での路上駐車は やめましょう!

発行:公益財団法人妻籠を愛する会 〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻2159-2 TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

脇道のこと Part3

下町 磯 村 琢 弥

今回は、与の洞を渡り渡島を目指します。与の洞に降りて石垣を登るようなことはせずに軽便道を歩いて、赤坂へ向かいます。赤坂墓地前の道を上って与の洞を目指します。この道は下へ向かうと、どんど焼きを行う一つ田橋へ通じているのですが、途中は宅地で登記されているので、地図上の道はつながっていません。さて上に向かって、与の洞を目指します。

与の洞に着いて背を向けた所から、今回の話の始まりです。石垣が与の洞以外にも左側の土地にかなり残っています。足元右には大井水の水路が残っています。



少し歩くと、小さな祠があり、その次に石段つきの大きめの祠が現れます。手も洗えるようになっていますが、さすがに水はきていません。さらに進むと大井水と交差した後、上り坂になります。大井水は、ゆったりとした傾斜で城山方面に向かっています。左下に大井水を見ながらどんどん上ると、途中にくさびを三か所入れた跡のある割りかけの石があったりします。この道が、妻籠城が見えないように作られた初期の中山道だとしたら、かなりきれいに残っていることになります。「秀忠もここを通ったのか?」などと考えてしまいました。



〈石段つきの祠〉

さて賽の神に出ると、道は直角に左に曲がります。 地図には描かれていませんが、本来はここまで長坂 がきていたらしいです。現在は崩れています。右の 道も地図にはないのですが、電力会社の鉄塔整備用 の道が切り拓かれていて、妻籠古城に行けます。地 図にある左に曲がる道は土塁を左手にして城山入口 へ向かいます。切れ目が何か所かありますが、はっき り道が見える所でさらに左に曲がります。地図にはも う二つ先の切れ目で曲がる道も描かれていますが、 草だらけです。二つの道は大井水の上を通る道と下 を通る道ですが、城山入口近くで一本につながりま す。ふと思ったのですが、大井水と土塁が交差してい る場所を調べたら、どちらが古いかわかるかもしれ ません。さらに下ると城山入り口の向かい側に到着 します。

次回は、城山茶屋裏から渡島グラウンド横までの道について紹介しようと思います。



(左手に土塁)

〈初期中山道〉



(割りかけの)